

「サクラが咲きますように」

東京都 ユリ様

二〇一四年二月、当時高校三年生だった私は、一人で広島を訪れていた。目的は、大学受験。私は広島県内の、ある大学の教育学部に行くことが中学生からの夢で、一生懸命勉強してきた。私の両親は共働きで、休みをどうしても取ることが出来ず、一人での滞在となった。滞在したのは広島市内のビジネスホテルだった。私は、一人で新幹線に乗ることも、一人で知らない地に行くことも初めてで、更に、受験の緊張で非常に心細かった。そんな私の姿を、ホテルの方が気付いてくれていたようで、受験当日、朝食のバイキングを一人で食べている私に、ホールのスタッフの方がお花の形のソーセージを厚く切って持ってきてくれた。そのお皿には、ケチャップで「サクラが咲きますように」というメッセージも添えてくれていた。私は、心遣いがとても嬉しく、不安な気持ちが小さくなって、落ち着いて受験に臨むことが出来た。はじめて見たかわいいお花の形のソーセージに喜んでいる私に、「これ花ソーセージと言って、広島ではとっても有名なソーセージで、花をモチーフにしているのよ。お祝いの時とか、特別な時に食べるの。」と、花ソーセージについて教えてくれた。この日が、私が花ソーセージと出会った記念日。花ソーセージ効果もあって、大学には無事合格した。直接ホテルに伺い、「おかげさまでサクラが咲きました！」と伝えたら、その時のスタッフの方をはじめ、従業員の皆さんが、自分のことのように喜んでくれた。

その日から約六年が経った。私は今、高校の教員免許を取り、都内の高校で教師として働いている。あの日のホテルの方の温かい心遣いと花ソーセージの思い出は私にとって、かけがえのないもので、受験の日を花ソーセージ記念日と名付けて花ソーセージ取り寄せて、焼いて食べることが習慣になった。

今年、初めて自分の教え子が大学受験を迎える。最期の授業の日、花ソーセージで生徒たちを送り出したいと思っている。「サクラが咲きますように」というケチャップのメッセージを添えて。